

症状が無いのに病原性細菌やウイルスが検出されることがあるの？

今年に入り、新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症について皆様方にも多くの情報が入っていると思います。「自分は元気だし、何も症状が無いから心配ない。」と思っている方、もしかすると病原体に感染しているにもかかわらず症状がない「不顕性感染者」かもしれません!!!

本号では、食品取扱従事者が今必要な不顕性感染による感染拡大予防法、特に新型コロナウイルスと腸管出血性大腸菌について、感染経路別を踏まえて説明します。

【不顕性感染とは？】

病原体に感染し、症状が顕れる場合を『顕性感染』と言います。発症に至るかどうかは、病原性のある細菌やウイルス (病原体) の病原性の強さや量、宿主 (病原体の暴露を受ける人) の感受性などにより大きく異なります。

このため、病原体に感染はしているが病気の症状 (発熱、咳、下痢、腹痛など) が顕れない、あるいはあまりに軽い症状で気づかない状態になることがあります。この状態を『不顕性感染』と言い、病原体は排出しているけれども症状が無いため、自身では気づかないうちに病原体を他へ拡げてしまい感染源になる恐れがあります。

【感染経路】

① 空気感染 (新型コロナウイルス)

感染している人が咳やくしゃみをした際に、口から飛び出した飛沫が乾燥し、その核となっている病原体が感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し、それを吸い込んで感染します。

② 飛沫感染 (新型コロナウイルス)

感染している人が咳やくしゃみをした際に口から飛ぶ病原体がたくさん含まれた水しぶきを吸い込むことで感染します。一般的に飛沫が飛び散る範囲は 1 ~ 2 m 程度です。

③ 接触感染 (新型コロナウイルス、腸管出血性大腸菌)

感染源である人に触れることで伝播する直接接触感染 (握手等) と汚染されたものを介して伝播する間接触感染 (ドアノブ等) があります。病原体が付着した手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染します。

【厚生労働省 Q&A】 「接触感染」： 感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の人がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染することを言います。

【WHO】 新型コロナウイルスは、プラスチックの表面では最大 72 時間、ボール紙では最大 24 時間生存すると報告しています。

④ 経口感染 (腸管出血性大腸菌)

病原体を含む水や食べ物を介して感染します。

【感染症の予防方法】

感染経路を遮断することが最も重要な感染予防策になります。また、手洗い、手指のアルコール消毒、換気といった皆様が日常的に行っていることが感染症の予防になりますので正しいやり方で行いましょう。

腸管出血性大腸菌は検便により『不顕性感染者』を発見でき、予防対策として重要です。



【F A X 情報に関するお問い合わせ先】

公益社団法人福岡市食品衛生協会

TEL 092-651-5111

【休日のご案内】

● 土曜日・日曜日・祝日

● 年末年始 (12月29日~1月3日)

● お盆休み (8月13日・14日・15日)

窓口業務を休ませていただきます

〔H A C C P (ハサップ) や検査に関するご相談・お問い合わせ先〕

厚生労働大臣登録検査機関公益財団法人北九州生活科学センター KLSC 福岡事業所

福岡市博多区千代 1-2-4 福岡生活衛生食品会館 4 階

TEL 092-642-1001

FAX 092-642-1002

URL : <http://www.klsc.or.jp/>